

オレンジ通信 Vol.⑥

佐々木まゆみ市議会活動レポート

2014年1月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ

仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

東日本大震災から間もなく3年。 復興の加速化へ全力で取り組んで参ります!!



昨年は、東北楽天ゴールデンイーグルスが日本一となり、東北・宮城、そして仙台がスポーツの力で、感動と勇気を頂いた一年でした。

今年は、政治の力で感動を与えられる様な結果をもたらしたいと決意しております。

東日本大震災から間もなく3年の月日が巡ってくる中、仙台の復興も具体的に形として現れます。荒井東・田子西の復興公営住宅、再建中の幸町高層も完成が近づいており、春には多くの方が移動の時期を迎えます。新しい土地での生活や住み慣れた土地での再スタートです。

平成25年度、第4回定例会も昨年12月17日に終了し、私も一般質問させて頂きました(中面に記載)。本年、第1回定例会は2月13日から開会されます。是非、傍聴に来て頂ければ幸いです。

また、市議会議員としても3年目を迎えます。さらに皆様方の声に耳を傾け、一つ一つ実績を積み重ね、住みよい仙台を作り上げて参ります。

本年も宜しくお願い申し上げます。

佐々木まゆみ

荒井の復興公営住宅を視察 (2013年12月16日)

外壁のシートも外され、内装も着々と進んでいます。この春にはこれまで仮設住宅に住まわれていた方々の入居がはじまります。

今後も整備が進み、平成27年度中には3200戸が完成する予定です。



●佐々木まゆみ プロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野選挙区)。

【仙台市議会】健康福祉常任委員会副委員長。エネルギー政策調査特別委員。広報委員。【公明党】宮城野西支部支部長。

復興住宅への入居開始にあたり 更なるきめ細やか



仮設住宅の集約の時期と、空き住戸の利活用について

【佐々木まゆみ議員】平成26年春の復興公営住宅への入居に向け、年明け早々、引越の準備も本格化となる。仙台市としてどの時点で、仮設住宅の集約の時期を考えているのか、また空きが生じる仮設住宅の利活用についてのご所見を伺う。

【復興事業局長】今後、復興公営住宅への入居が本格化するなど、被災者の住まいの再建が進むことにより、プレハブ仮設住宅に空き住戸が生じ、コミュニティの維持や防犯等の課題が懸念される。このため、プレハブ仮設住宅の集約が必要となることが想定される。その時期については、入居者のご意向をお伺いしながら検討を進める必要があるものと考えている。また、空き住戸については、これまで、民間賃貸住宅の貸主不同意となった方や、新たに介護認定や障害の認定を受けた方など、世帯のご事情に応じて、活用してきた。今後ともお一人おひとりのご事情をお伺いしながら、これらの課題に対し、適切に対応してまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】復興公営住宅への入居の申し込みが随時始まっている。プレハブ仮設にあるエアコンや照明器具など、住戸のために整備したものは現在持ち出しが出来ないことになっている為、初めから買い揃えることになる。住民の方からは、活用できないのかとの声もあるが、本市としての所見を伺う。

【復興事業局長】応急仮設住宅のエアコンや照明器具等の附帯設備の再利用については、本市より設置主体である宮城県に対して課題提起しており、現在県において検討を進めているところと認識している。本市としては、復興公営住宅の入居が本格化する今年度内を目途に、県との協議を進めてまいりたい。

復興公営住宅への入居について

【佐々木まゆみ議員】仙台市では、仮設住宅から民間賃貸住宅に引っ越す場合、生活再建支援金が支給されるが、仮設住宅から復興公営住宅に入居する際は、加算支援金が支給されない。市営住宅入居時と同様、3ヶ月の敷金が掛かる。

復興公営住宅への入居募集案内の中には、入居にかかる費用敷金猶予制度の記述があるが、周知不足か、ほとんどのの方に伝わっていないのが現状だ。猶予期間をきちんと明記すると共に、高齢者の方も多くいらっしゃるので、きめ細かな丁寧な説明と周知が必要かと思うがどうか。

【復興事業局長】敷金の猶予制度については、説明会や個別相談会等で概要について説明してきたが、猶予期間を含めて十分にご理解いただけるよう、入居が決定した皆様には、改めてご説明する。さらに、来年度の入居募集についてご案内する際には、よりわかりやすく記載するなど、被災者の皆様が適切に生活再建が図れるよう丁寧な対応に努めていく。

コミュニティ支援について

【佐々木まゆみ議員】

今までもプレハブ仮設住宅に区役所職員が相談や窓口対応として期間限定常駐されていた。新たなコミュニティ作りの支援策として、市職員の期間限定常駐の相談窓口設置を求めるがどうか。

【復興事業局長】現在の所、復興公営住宅につきましては、職員の常駐は考えてはいない。

いかなる住民への支援を！

多くの被災者の方々が一斉に入居するので、コミュニティづくりや見守り体制づくりは重要であると認識している。

こうした考えから、各区役所や市民センター、各区の支えあいセンター等それぞれの地域の関係機関、連合町内会や地区社会福祉協議会等の地域団体が連携しながら、自治会の立上げ支援や、見守り活動などを進めてまいりたいと考えている。

被災校の児童支援について

【佐々木まゆみ議員】被災した小学校に通っていた児童は、現在違う学校で勉強をしている。慣れない土地・校舎での学校生活、仮設住宅からのバスでの通学。本市としても「心の支援チーム」として臨床心理士やケースワーカーを学校に派遣するなど今までも支援して頂いているが、中にはPTSDの症状が見られる児童もみられる。今後、復興公営住宅に転居し通学する学校がまた変わる児童もおり、更なる個別対応、心のケアが必要と思うがどうか。

【奥山市長】津波による被害を受けた小学校の子どもたちについては、別の学校への併設や、居住地移転等の環境の変化により、ストレスの増加や学校生活への不適應などが心配されるのはご指摘の通りだ。今後とも、教育委員会を中心として、保健福祉センターや児童相談所はもとより医療機関等との連携や情報の共有化を図り、とりわけ配慮を有する児童生徒への個別支援についてしっかり取り組んで参りたい。

被災校におけるスクールバスの運行について

【佐々木まゆみ議員】スクールバスの運行は通学支援のみとなっているため、授業以外の運行には使用されていないのが現状だが、せめて夏休みの学校開放事業のプールは、スクールバスを運行し、いつも通りに夏休みにプールで遊ぶことが出来るようにすべきではないか。

【教育長】常時運行は難しい面があるが、全校的な行事の際などには、学校と協議しながら、今後とも柔軟に対応してまいりたい。

公共施設のバリアフリーについて

【佐々木まゆみ議員】市民センター・コミュニティセンター・地域の集会場などで、車イス対応のスロープや室内での高低差の解消など、段差解消を含むバリアフリーへの早急な対応を求める。

【市民局長】市民センター・コミセンに関しては、今後の大規模改修や改築にあわせ、更なるバリアフリー化に努めてまいりたい。

一方、地区集会所については、バリアフリー化を含め施設の改修や修繕に対する本市の助成制度があるので、地域の皆様からのご相談を承りながら、対応してまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】2015年3月に開催される「国連防災世界会議」では世界中から多くの方が本市を訪れる。観光客対応のためにも洋式トイレが大事になるし、バリアフリーにもつながる。年次毎の整備計画を立てるべきと考えるがどうか。

【市民局長】既存施設においては、工事中の施設利用が制限されることや、洋式の方がスペースを必要とすることなどから、トイレ単独での改修は困難であり、施設の大規模改修の機会を捉えて取り組んでいく。また、「国連防災世界会議」の関連事業が行われる公共施設については、何らかの対応ができるか、関係局と協議してまいりたい。



World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

国連防災世界会議シンボルマーク



セラピードッグ来所

認定NPO法人 日本レスキュー協会の方々から神戸から12月10日、市役所へ4匹のセラピードッグと共に訪問してくれました。震災以降、何度も宮城県内を訪れ、今回も仮設住宅を訪問し住民の方に大変に喜ばれました。



街路樹整備を実現(幸町)

以前は、未整備で歩行者の通行の妨げとなっていました。整備によって改善され見通しもよくなりました。以後、定期的に植込み整備を実施しており「きれいになった」と喜ばれています。



カーブミラー設置 (鶴ヶ谷)

地元の町内会長からの要望で住宅地内の十字路に設置しました。



段差解消(大槻)

ガス局から坂下交差点へぬける歩道。大槻側は歩道の幅も狭く段差も多く、車いすの方が方向転換するのもにも困難な箇所がありました。「歩道のバリアフリーを」との声を市に伝え早々に整備を実施、段差が解消されました。毎日通られる車いすの方々「通りやすくなった」と喜んでいただいています。



側溝の整備(小鶴)

以前は、応急的に大きさの合わない蓋等が使われており安全面に問題があり美観も損ねていました。さっそく市に要請し整備を実施、キレイになりました。